

出張日程： 2014年3月9日（日）～12日（水）；3泊4日

9日（日） 宇土市前泊

10日（月） 熊本サルクチュアリ見学

11日（火） 午前 熊本サルクチュアリ見学 午後 熊本市動植物園見学

12日（水） 午前 カドリードミニオン見学

同行者：兼子明久 藤森唯

1 熊本サルクチュアリ見学

獣医師の鶴殿俊史氏をはじめ、同施設の複数の職員の方々にお世話になった。

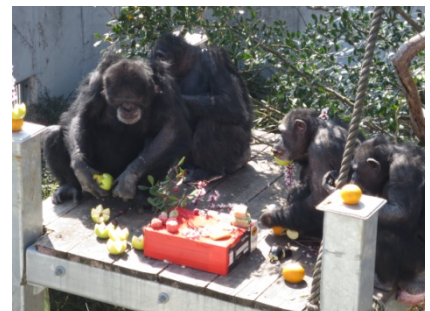
最近導入されたボノボが大変印象的であった。チンパンジーに比べて華奢な体つきをしており、非常におとなしく平和的な感じがした。チンパンジーがときに荒々しいのとは対照的であった。タッチパネルを用いた認知実験の訓練も見せていただいた。

そのほか、新設設備として、WISH 第二ケージや、運動場外周の空中通路を見学した。ベテランの飼育担当の方の意見がよく反映されていると感じた。外周の空中通路は、霊長研キャンパスにも設置できれば飼育管理に有効に使えるのではないかと思った。

また、エンリッチメントの一環として行われているひなまつりのお祝いも見学でき、ほほえましく感じた。



麻袋でつくった巣で寝転ぶボノボ



ひなまつりのお祝い。飾りはすべて野菜や果物で作られていた。

2 熊本市動植物園見学

チンパンジー担当の飼育員 福原真治氏をはじめとする職員の方々にお世話になった。

チンパンジー舎見学をメインに、獣医関係の施設（治療室・入院室）、その他霊長類展示エリアを見学した。チンパンジー舎は3年前に新装なった施設で、大変きれいな設備であった。全天候型の屋内運動場が特に印象的であった。チンパンジーはどの個体も霊長研の個体に比べるとおとなしく穏やかな感じがした。

キンシコウは展示スペースが工事中で一般展示はなかったが、バックヤードからみることができ、美しい毛並みを間近に見ることができた。そのほか、興味深かつ



屋内運動場の内景

たのは、ニホンザルの展示施設で使われていたネットであった。細い素材で目立たないが強度はあり、展示に大変向いていると感じた。目立たないので保守点検がしにくいという欠点はあるが、使い方次第では面白い素材であると思った。

ニホンザルの展示施設で使用されていた極細のネット



3 カドリードミニオン見学

同施設は阿蘇市にあり、チンパンジーのパンくんが有名になった動物園である。同施設の目玉である動物ショー『みやざわ劇場』を主宰する宮沢厚氏に案内いただいた。

チンパンジーの飼育スペースは獣舎のほか、チンパンジー学習の森と名付けられた屋外放飼場があり、飼育頭数 2 頭に対して十分なスペースがあった。また、2 頭ともゆったりと過ごしている感じを受けた。私設の動物園で飼育されているチンパンジーを見学できたのはよい経験であった。



屋外放飼場『チンパンジー学習の森』

4 さいごに

今回は、それぞれ成り立ちの異なるチンパンジー飼育施設を見ることができ、施設間の共通点や相違点を知ることができ、大変興味深かった。さらにさまざまな施設を見学して見識を広めていきたい。

今回の出張の機会を与えてくださったみなさまに感謝いたします。